

平成29年度 第1回 館山市総合計画審議会 会議記録

- 1 日時 平成29年6月28日(水) 13:30~16:00
 2 場所 館山市コミュニティセンター 2階 集団指導室
 3 出席者

委員構成	氏名	役職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	室 厚美	市議会議員
	望月 昇	市議会議員
	森 正一	市議会議員
産業関係者	杉井 繁樹	館山商工会議所 推薦
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推薦
	原 徹	公益社団法人 安房医師会 推薦
	平野 直	館山市地域公共交通会議 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
	千原 清之	一般社団法人 館山青年会議所 推薦
教育関係者	清本 智美	館山市教育委員会 推薦
	黒島 義春	国立館山海上技術学校 推薦
金融関係者	西村 一郎	館山市金融団(二十日会) 推薦
労働関係者	羽山 敏雄	千葉県社会保険労務士会木更津支部 推薦
報道関係者	鈴木 勉	館山市記者クラブ 推薦
知識経験者	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	鈴木 正弘	社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦
	廣中 元衛	館山市体育協会 推薦
	押元 昇	館山市子ども・子育て会議 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口かおり	公募委員

(欠席者) 高橋實委員, 小金晴男委員, 池田一浩委員, 實原浩一委員

4 議題

- (1) 副会長の選任について
- (2) 地方創生関連交付金事業について
 - ①H28 加速化交付金及びH28 推進交付金（効果検証）
 - ②H29 推進交付金の取組概要
- (3) 『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について
 - ①進捗状況報告（数値目標・KPI）
 - ②一部改訂
- (4) 第4次館山市総合計画『前期基本計画』について
 - ①進捗状況報告（成果指標）
- (5) その他

5 会議の経過

1. 開会
2. 市長挨拶

金丸市長：ご多用の中、本審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から市政発展のためのご尽力を賜っていることに対しましても、厚くお礼を申し上げます。

本審議会を、昨年7月末に開催して以降、所属されている団体の役員改選等がありまして、この度、新たに7名の方が委員となりました。委員就任についてご快諾いただきましたこと、誠にありがとうございます。

平成27年秋に策定しました『館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略』は、現在、計画期間の2年が経過し、また、平成27年度末に策定しました「第4次館山市総合計画」につきましても、昨年度が『前期基本計画』の初年度であったことから、スタートから1年が経過しました。

国の『地方創生推進交付金』事業は、今年度の事業費が約1億5,600万円、交付決定額は、事業費の半分の約7,800万円となり、委員の皆様の慎重審議のお陰により、県内トップの結果となりました。

引き続き、計画の着実な実行に努めるとともに、『地方創生交付金』を基に、「地域の特性」を活かした各種事業に取り組んでいきますので、ご協力くださるよう、お願いいたします。

本日の議題は主に

- ・平成28年度に実施した『地方創生交付金事業』の効果検証
- ・『館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略』の進捗確認と一部見直し
- ・『前期基本計画』の進捗確認

となっています。

本日、委員の皆様方をお願いしたいこととして、昨年度の『交付金事業』の効果検証にあたり、事務局案でお示した「評価結果」・「今後の方針」の内容に関する

る協議や、『総合戦略』及び『前期基本計画』で設定した「成果指標」の進捗状況の確認、そして、『前期基本計画』に位置付けた各事業の実施状況、効果、課題、改善策の内容に関するご意見等を頂戴したいと考えています。

本審議会の開催に際しましては、多くの資料やデータを読んでいただくなど、ご負担をおかけしますが、日頃から様々な分野で活躍されている皆様の、豊富な経験と見識に基づき、どうぞ活発なご審議をいただきますようお願いいたします。結びに、各界各層の代表であります委員の皆様方には、館山市行政へのより一層のご協力をお願い申し上げまして、挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございます。

3. 新規委員の紹介

4. 議事

(1) 副会長の選任について

副会長：小金晴男委員

(2) 地方創生関連交付金事業について

①H28加速化交付金及びH28推進交付金（効果検証）

（事務局より、地方創生関連交付金事業の概要、効果検証の方法及び各事業について説明）

<No.1 海岸活性化プロジェクトの推進>

（事務局より説明）

杉井会長：事務局案のとおり、KPIに対する評価は「相当程度有効」、今後の方針は「継続」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

<No.2 沖ノ島の環境整備>

（事務局より説明）

上野部長：沖ノ島環境保全協力金について、事前にご質問をいただいておりますので、若干の補足説明をいたします。

沖ノ島の進入路は、防衛省の財産であるため、その使用にあたり、これまで法的な問題等の協議を重ねてきました。昨年度は、約29,000人のお客様が海水浴場のシーズンにお越しいただいております、何とか、環境の保護、警備やトイレの保守点検等にかかる経費につきまして、利用者の方から協力金をいただきたいということで、ようやく、今年度から着手することになりました。

今後につきましては、今年度の実施結果を踏まえて判断をしていくということで考えています。

原委員：沖ノ島にある海の家2軒については、市に借用料みたいな形で収入が入ってくるのですか。

久保田部長：これまで海の家2軒については、海岸砂地を管理する県に占用料が支払われていました。

今年度は、沖ノ島の入口、四阿のあるゲートのそばから市道認定をしたことにより、海の家で使用する発電機や資材等について、市道認定した部分を使用する場合、海水浴期間になります。市のほうに占用料が数万円程度入ってくるようになっていきます。

望月委員：沖ノ島への進入路はたいへん細長く、範囲も広いので、徴収方法も複雑になってくるのではないかと思います。どのようなお考えをされていますか。

上野部長：国有地の入口のところで、協力金についての周知PRを図るため、チラシを配布しまして、協力金につきましては、海の家付近に、NPO（たてやま・海辺の鑑定団）と一緒に観光案内所を設置しますので、そこでいただく場所を設けることで考えています。

杉井会長：事務局案のとおり、KPIに対する評価は「非常に有効」、今後の方針は「追加等、更に発展」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

<No.3 良好な海岸環境の保全>

（事務局より説明）

室委員：海岸清掃は非常に良いと思いますが、KPIの目標値として、市内海水浴場の入込客数がありますが、目標値あるいは前年度の実績よりも下回っています。

KPIによる評価が「非常に有効」となっていますが、一番の目標としている海水浴場の入込客数が増えていないことに対する評価というのは、どこにどのように盛り込んだら良いのでしょうか。

事務局：KPIの評価については、数字上で申し上げますと、達成率が80%を下回る形になっており、これだけみれば前年度より下回っているという状況になります。

海水浴場の入込客数については、海岸美化以外の取組も含めて最終的な結果が示されます。これは他の事業にも共通しますが、KPIに設定していながら、すべて結果に反映できないところもあります。

今回は、交付金を活用して事業を行っておりますので、事業の実施内容について特にご意見をいただければと思います。また、海水浴場の入込客数が増えるようなご意見・ご提案がありましたら、頂戴できればと思います。

室委員：提案というよりも数字に対する評価をする場かと思いましたが、マイナスの評価に関して、どこかに入れる必要があるのかないのかを考えました。

確かに、環境美化に取り組むのは非常に良いことですが、まだPR不足という状況であるのか、あるいは他の海水浴場に比べて優れているということでしたら、もっとPRに力を入れるとか。やっている内容を評価するというよりは、目標を達成するためにどうしていくかを今後考えていくべきかと思いましたが。

杉井会長：確かに実績値が下がっていますし、目標を掲げている以上、基準値と比べて落ちているということは何らかの原因があるものだと思いますので、十分な検証をしていただき、今後につなげていただきたいと思います。

上野部長：平成27年度に、主に水上オートバイ等への対策として、「安心・安全な館山の海水浴場の確保に関する条例」を県内で初めて制定しましたが、私どもの取組が他の地域にも認められまして、同様の取組をしている自治体が増えてきております。今後さらにPRに力を入れまして、より多くのお客様に来ていただけるように努めていきたいと考えています。

鈴木（久）委員：沖ノ島海水浴場の入込客数は増えていると思いますが、北条海岸や他の海水浴場の状況はどうなっていますか。

上野部長：28年度の実績が約71,000人、27年度の実績が約78,000人、26年度については69,000人となっています。

入込客数は沖ノ島が多く、それ以外では波左間、北条海岸となっています。

杉井会長：事務局案のとおり、KPIに対する評価は「非常に有効」、今後の方針は「継続」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

<No.4 海の魅力発信事業>

（事務局より説明）

杉井会長：事務局案のとおり、KPIに対する評価は「相当程度有効」、今後の方針は「追加等、更に発展」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

<No.5 空き家実態調査事業>

（事務局より説明）

久保田部長：事前にいただいたご意見・ご質問についてお答えします。相続等、所有者の変更もありうるということで、空き家に対しての煩雑性をアドバイスしていくサービスも実施したらどうかとのことですが、相続手続きのアドバイスについては、行政ではなく、司法書士等に相談するようにご案内していくことになると思っています。

また、司法書士会では、無料相談会や電話による相続の受付、弁護士会でも有料ではありますが、相談窓口を設置しています。

加えて、相続手続き等につきましては、法務局からの依頼によりまして、館山市役所市民課に死亡届が提出された際に、パンフレット等の配布を行っているところです。

また、本交付金を活用して、市内全域における空き家の実態調査を行い、そこで抽出された利活用が見込める空き家の所有者の方に対してアンケート調査を実施しました。

その結果、回答した空き家の所有者のうち、空き家の利活用・売却・賃貸等の意思がある所有者の方が半数近くおりまして、3割にあたる所有者の方は行動に移していないという状況です。

これらの物件を民間市場に流通させることが、空き家を減少させるために重要であると考えておりますが、空き家を減少させるためにはかなりの時間を要するものと考えています。

そこで、行政主導で実施ができる、周辺に影響を及ぼす恐れのある危険な空家の除去を最優先に行い、地域における危険性を排除することを目指しております。

望月委員：固定資産税を確実に市が徴収するとか、危険空家の対策は一義的にまずは行政の問題となってくるのではないのでしょうか。司法書士等と協力しながら行うのは勿論結構なことですが、まず、市が自分たちの問題として解決していくのが筋ではないかと考え、質問したところです。

原委員：空き家がグループホームとして活用している事例が多くみられ、偏見とかではありませんが、薬物依存の方等もおおり、周りの方が不安を感じているところもあります。情報公開の仕方もありますし、何をもって空き家対策として行うべきかをはっきりしておく必要があるかと考えています。

田中委員：アンケートの回答率はどの程度だったのでしょうか。

久保田部長：アンケートの送付件数が923件、回答数が414件、回収率は44.8%となっています。

田中委員：KPIの①と事業概要の①は、必ずしも一致していないということによろしいのでしょうか。

事務局：KPIについては、例えば、加速化1では、事業No.1～No.4までの4つの事業で構成されており、4つのKPIを設定しているという状況になります。従いまして、必ずしも一致はしておりません。

杉井会長：事務局案のとおり、KPIに対する評価は「相当程度有効」、今後の方針は「終了」でよろしいのでしょうか。

全員：異議なし

<No.6 空き保養所実態調査・利活用方策検討事業>

(事務局より説明)

上野部長：当初より遅れた理由と、雇用人数が1名となった理由についてですが、情報の収集等、思った以上に空き家の実態調査が時間を要しまして、その後、実態調査で得た情報から、店舗や事業所であったと思われる物件を整理しました。今後は、所有者の意向調査等も踏まえて、活用方策について具体的に考えていきたいと思えます。

事務局：執行残につきましては、すべての事業に関して言えますが、当初予定していた内容を実施しなかった、あるいは実施できなかった場合に、他の内容への流用ができないことになっており、執行残の分は使わずに終わることとなります。

なお、実績報告による精算払という形式のため、交付金の返還等の処理はありません。

室委員：空き家の利活用ということで、先進地域の雲南市へ視察に行きました。結局、使いたくても使えない人が多く、片付けや改修ができずに放置されているという状況で、雲南市ではそれに対する補助制度を設けていました。

また、補助金的前提として空き家バンクに登録するという条件で、しかも移住者に貸し出すという条件で行っており、かなり効果も出ていました。

先ほど「行政ができることは何か」という話もありましたので、こういったこともぜひ検討していただきたいと思います。

杉井会長：事務局案のとおり、K P Iに対する評価は「ある程度有効」、今後の方針は「継続」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

<No.7 シティセールス魅力発信事業>

(事務局より説明)

杉井会長：事務局案のとおり、K P Iに対する評価は「相当程度有効」、今後の方針は「継続」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

<No.8 移住・定住促進事業>

(事務局より説明)

室委員：移住世帯数、移住者数のK P Iも基準値と比べて、そもそも目標値もそれほど高くなく、さらに実績も下回って、人数としても半分となっています。

移住に関する話題性は非常にあると思いますが、それが数字に繋がっていないので、もっと真剣に考えていただけないかと思っています。

空き家バンクに関しては、ずっとみてきましたが、登録が2件ぐらいしかなく、南房総市では10件以上ありますし、先ほどのような取組だけでなく、例えば、不動産会社を巻き込んで空き家バンクを行ったりしている事例もあり、今はN P O（おせっ会）だけで行っていますので、検討するときには弱いのかなとも考えています。

上野部長：昨年度は、移住世帯数も移住者数も一昨年度と比べますと、確かに減っています。国全体の流れの中で話をしますと、東京にある「ふるさと回帰支援センター」の調査結果によりますと、地方都市を希望する人の数、割合が、前年の5割になったとのこと。

しかしながら、そういう状況にあっても、移住定住に向けて、しっかり取り組まなければなりませんし、空き家バンクも含めて、先進事例も参考にしながら、さらに充実させていきたいと考えています。

鈴木（正）委員：他の自治体では補助金を出して人を呼んでいるということを知りますので、館山市でも同様の方法で移住促進を図ったらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

金丸市長：補助金は選択肢の一つでありますし、実際に補助金も出していますが、補助金だけではないと考えています。子育て環境の充実とか、不動産の物件も多く出していますし、現在かなり良い循環ができていると考えています。

また、館山市の転入・転出の人数を比較しますと、転入者のほうが多くなっている状況です。自然減ではありますが、社会増となっています。社会増となっているのは、県南でも木更津市と館山市ぐらいしかありません。

私としては、補助金うんぬんではなく、取組全体で魅力をアップさせることが大事かと考えています。

原委員：今の市長の意見に賛成します。要は「誰でも良いから来てくれ」というのではなく、館山に移住してきていただいて、活性化するような形を作らないと。

負担になる人ばかりが来るようでは、かえってマイナスになってしまいますし、現実問題、それでは困ると思います。自衛隊以外にどのような方が来られているか、検証していただければと思います。

杉井会長：事務局案のとおり、K P I に対する評価は「相当程度有効」、今後の方針は「追加等、更に発展」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

<No.9 海路利用促進事業>

(事務局より説明)

望月委員：先日、東海汽船のセブンアイランド号に乗船して、東京まで行ってきました。

意見にも書かせていただきましたが、海から見る房総半島は、鉄道から見る風景、車窓から見る風景とはまた全然違って、すごく綺麗です。これが東京湾にあったのだと初めて気づかされて、まるで、お金をたくさん出して、遠くまで行ったような気分になりました。

市民の実体験として、人から人へのコマーシャルが一番有効だと思いますので、できれば、まずは市民に知っていただくため、例えば、乗船に対し、20%、30%でも、市から補助的なものを出しても良いかと思っています。

公共交通に乗るということ、そこでは、身近に転がっている素晴らしいものの発見があります。これから免許返納の問題もありますし、コミュニティバスの案件もありますし、こういうことから公共交通に乗る方を増やしていければ良いのかなと思っています。

それで、できれば公共交通の体系、路線の良いところに、コンパクトシティを作り、だんだん発展させていければ、館山市はもっともっと良くなるのではないかと考えています。

溝口委員：東京と館山の間を船で行くというのは、本当に魅力のある交通機関だと思いますし、渋滞は無く、時間的にも速いと思います。将来的には定期航路になると良いなとすごく思っています。

船に乗っての旅行も特別な感覚になるでしょうし、これから広がったら良いと

思いますし、将来性のある事業だと思っていますので、望月委員の意見に賛成したいと思います。

杉井会長：事務局案のとおり、K P I に対する評価は「非常に有効」、今後の方針は「追加等、更に発展」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

<No.10 恋人の聖地事業>

(事務局より説明)

杉井会長：事務局案のとおり、K P I に対する評価は「非常に有効」、今後の方針は「追加等、更に発展」でよろしいでしょうか。

全員：異議なし

②H29 推進交付金の取組概要

(事務局より説明)

(3)『館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について

①進捗状況報告(数値目標・K P I)

(事務局より説明)

石井(敏)委員：企業訪問件数の累積値が40件、頑張っていたのだが、企業誘致できた件数はゼロということで、なかなか結果が出ない分野という理解でよろしいでしょうか。また、行ったときに反応がどうだったのかお伺いしたいと思います。

上野部長：ご指摘のとおり、精力的に企業訪問していますが、結果まで繋がっていないというのが実態です。現在、I T系、ベンチャー企業をメインターゲットとしまして、サテライトオフィスの開設、企業合宿等の誘致を目指して、企業と接触しているところです。

先方の反応については、まだまだ館山そのものの認知がされておらず、入口のところでP Rが足りていなかったということも感じています。具体的に動いているものもありますが、先ほどありました、空き店舗の活用も重要な要素だと考えています。

石井(敏)委員：先方の反応ということで、徳島県の神山町では、「神山バレー」ということでたくさん来ているところがありますが、あちらは独特のやり方をされていると思いますが、来る側が何を望んでいるかが重要だと思います。特に、I Tに関しては、どういう条件があれば来てくれるのかなど、把握されているのでしょうか。

上野部長：合宿誘致等では、こちらの環境というものを非常に認めてくださっています。ただし、交通アクセスは以前より良くなっているものの、電車、特急等の問題もありまして、東京から館山に来るにはかなりハードルがあるように感じて

います。

企業合宿については、先方とのネットワークができておりますので、県の企業立地課も一緒になって動いてくれています。周辺市町では実績に繋がっているところもありますので、魅力の部分を中心にPRしていき、当市に来ていただけるよう取り組んでいきたいと考えています。

杉井会長：企業誘致に関しましては、商工会議所としても憂慮しており、一昨年、市長にお願いをして経団連と一緒にいていただき、何とかUMC Jの後継を紹介してもらえないかということで、お願いに伺いましたが、なかなか良い返事はいただけませんでした。「まず、木更津市でさえ出てこないという中で、今の時点では、木更津市より遠い館山には難しいだろう」といったような話もありました。ただし、都心とは非常にアクセスも良くなっていますので、もっと館山のPRをした中で、何とか突破口を開き、私どもとしても、市と一緒にやっていければと考えています。ただし、これは非常に難しい問題であると認識しています。

室委員：計画では、初めて目標値やKPIを取り入れてやっているのですが、市の意識として、資料3-3で前年に比べてどうなったかという数字をずっと説明していき、目標に比べてどうかということが出てきていないのですね。

前年より増えていても目標に達していないのであれば、それはやっぱり問題ありという風に捉えて、何が問題なのかを考え、目標がおかしいのであれば目標を変えとか、達成されなかった要因を考えて次にまわすとか。そういうために目標を作ったと思いますので、前年比でプラスかマイナスかだけではなく、目標値に対しても意識を持って取り組まないと、せっかく目標値を作っている意味が無いと思いますので、その点は今後の分析に繋げていただければと思います。

杉井会長：この点については、私もそのとおりだと思いますので、今後、結果を報告する際には、ご指摘のような形での数字の提出をお願いしたいと思います。

森委員：市にはFacebookのページがあり、数は増えているのですが、もっともっと広げられると思っています。市の職員も結構登録はしていると思いますが、市全体として、職員の中での意識感覚はどのような感じでしょうか。

鈴木部長：市の職員は400名程おりますが、意識については個人差がかなりあると思っています。市の公式Facebookはありますが、行政情報ですので、好奇心に繋がる記事にするかというのは疑問なところがございます。

そうした中で、「地方創生人材支援制度」を活用しまして、今回、この交付金により、凸版印刷㈱の矢尾部長を市の参与に委嘱し、シティプローションという切り口で取組を進めています。取組によって、少しずつ変わりつつあるのではないかと期待しているところです。

森委員：Facebookで仲間を増やすこと自体、労力はかかりますが、コストはかかりませんので、私も仲間増やしをしています。共通の意識、館山市の情報発信としてかなり有効だと思いますので、もう少し仲間を増やす努力をしていただければと思

います。

溝口委員：W i - F i 環境整備について、トイレに整備するということでしょうか。

鈴木部長：5年間で5カ所ということで、総合戦略に位置付けていますが、城山公園等、必要なところにはすでに整備されています。

海岸線沿いには観光トイレがありまして、インバウンドやサイクリスト向けに必要なだろうということで、5カ年の整備箇所数を示していますが、効果や使用頻度なりを勘案しながら予算要求をしていくことで考えています。

森委員：関連する内容で、W i - F i については、出野尾や市民グラウンドや庁舎にも入っていますが、繋がらない瞬間が結構あります。たぶん、繋がる回線に制限があるのだと思うのですが、回線を増やすことは可能でしょうか。

鈴木部長：回線数も含め、個々の利用状況を把握するのに費用はかかってしまっていますが、今後検討していければと考えています。

②一部改訂

(事務局より、2点の見直し項目について説明)

杉井会長：追加1件、修正1件についてご意見・ご質問ありますでしょうか。

石井(敏)委員：赤山地下壕ですが、環境整備をされるということで、どのくらいの予算で、具体的にどういった工事、環境整備を予定していますか。

事務局：地方創生推進交付金で、29年度に250万円で計画しております。調査費という形で計上していきまして、採択は先になります。30年度に遊歩道整備ということで計画に入れています。

石井(敏)委員：もう少し具体的にお願いいたします。

久保田部長：250万円の内容については、現在、赤山地下壕に入壕する方の安全のために、月1回、職員が目視で壕内を点検しています。

業者による安全点検は、5年前に1度行いましたが、今回は5年目ということで、本交付金を活用して実施しようとするものです。

5年のスパンで業者に委託して点検することについては、国土交通省の指針により「トンネルについては5年に1回、安全点検をなさい」となっており、赤山地下壕についてもそれに準じて実施しようとするものです。

石井(敏)委員：それでは、新たに何か造るというよりも、安全性の確保ということでしょうか。

久保田部長：そのとおりです。

金丸市長：安全点検によって、不備が見つければ、その後直していくということになります。

望月委員：内容について異論は無いのですが、「戦争遺跡である赤山地下壕跡の環境整備を行うことで、市民にとっても館山を来訪する方にとっても、より魅力あるスポットになるよう」の「魅力ある」という言葉に引っ掛かりがありまして、たくさんの方が亡くなっている戦争、また、この地下壕でも多くの方がたいへんな苦勞をなさっているところで、私たち後世の人間たちが「魅力ある」という言

葉で表現して良いのだろうか」と疑問に感じています。

代案としまして「より見学すべきスポット」とか、他の言い回しにするとか、いかがでしょうか。

金丸市長：確かに「魅力ある」ですと、そういう考えをお持ちになる方もいらっしゃる気がします。「より平和学習として魅力ある」とかでいかがでしょうか。

望月委員：一面だけを捉えて、言葉が独り歩きするのが一番怖いと思っています。

鈴木部長：総合戦略の中に「館山の魅力向上に向けた環境整備」という小項目があり、「魅力」という言葉を用いましたが、望月委員のおっしゃるとおり、負の遺産ではありますが、平和学習ということで活用し、年間3万人の方が入ってくださっています。表現は「館山市の特徴ある」とか「個性ある」とかでいかがでしょうか。

室委員：今の趣旨からですと、位置づけるところがここでは適当ではないように思われます。例えば「ふるさとの誇り」とか「教育」関係のところがありますので、そういったところに位置づけて文言修正するのはいかがでしょうか。

鈴木（勉）委員：「魅力」と「戦争遺跡」が合致しないということがありますので、確かにふさわしい文言に入れ替えたほうが良いように思います。

田中委員：「後世に伝えるべきスポット」でいかがでしょうか。望月委員のおっしゃっていることはすごく良くわかります。一部の文言だけ切り取られて、そこだけ独り歩きして炎上するという事は、すごく良くあることで、SNSとかで今それが問題になっています。

戦争という特性上、やわらかい言葉はそれほど追求しなくても良いかと思えます。あとは、館山としてどう考えるか、考え方の表明でもあると思えますので、自分の案として「後世に伝えるべきスポット」がどうかと思いました。

鈴木部長：どの項目に位置づけるかも含め、この場で決定するのは難しいと考えますので、改めて事務局案を提示して、ご意見をいただく形でお願いできればと思います。

杉井会長：それでは、ここでは決定しないということで、より良い表現で修正していただくということでお願いしたいと思います。

金丸市長：今のご意見を踏まえて、事務局で案を作りますので、それで、皆さんのご意見をお聞きするという形でよろしいでしょうか。

杉井会長：それでは、そのようにお願いします。今回、追加1件、修正1件について、事務局案について賛成ということでよろしいでしょうか。

全員：異議なし

(4) 第4次館山市総合計画『前期基本計画』について

①進捗状況報告（成果指標）

（事務局より説明）

杉井会長：248事業について20分でみるというのは無理な話ですが、資料4-2の中に、細かく「課題」「今後の事業展開」「改善策」など示されています。

ご覧になっていただいた中で、ご意見・ご質問があれば、今後の事業展開に活かしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

石井（敏）委員：まず、意見としまして、たいへん素晴らしいものを作っただけだと思います。これを見ると、市が何をやっていて、どんな課題を抱えているのかというのが、非常にコンパクトでわかりやすく書かれていると思います。

今後必要に応じて、このようなものを出していただければと思います。質問ですが、ここにある248が前期基本計画に載っている全事業と捉えて良いのでしょうか。

事務局：ご質問のとおり、全248事業になります。

事務局：事業数もボリュームもありますので、この場ですべてというのは難しいところがあるかと思いますが、後日でも構いませんので、事務局までご意見等いただければと思います。

杉井会長：事務局から説明がありましたが、後日、お気づきの点がありましたら、ご指摘をいただきたいと思います。

（5）その他

金丸市長：赤山地下壕跡の環境整備の件ですが、総合戦略に位置づけるジャンルを変えさせていただきたいと考えています。先ほどの「館山の魅力向上に向けた環境整備」ではなく、その前段にある「生きる力と郷土愛の育成」の中に位置づけさせていただけたく、そうすれば、「魅力」という言葉は用いませし、平和の大切さを伝えるとか、郷土愛を育成するという事で、しっくり当てはまると思いますので、ご了承いただけますでしょうか。

委員の皆様にはフィードバックさせていただきますので、そのときにご意見等を頂戴できればと考えています。

杉井会長：それでは、この件については市長にお任せしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

以 上